da ba da
TENT
Satellite
dabada

エディンバラアートフェスティバル 2011 公式プログラム

□ 企画趣旨　**「Satellite」**（衛星）

Edinburgh Art Festival2011の**公式プログラム**として芸術と科学の共同研究を行う組織**ASCUS**の協賛のもと**「Satellite」（衛星）**をテーマに、スコットランド、オランダ、日本、アメリカの**4ヶ国**から選出されたアーティストによるグループ展をエジンバラ芸術大学大学院｜アートスペース＆ネイチャークラスに併設されている**TENT gallery（テントギャラリー）**において開催します。

それに伴い**ASCUS、Art Science Collaborative、Royal Observatory of Edinburgh**（エジンバラ国立天文台）とコラボレートした**対話式ワークショップ**、エディンバラの国立天文台の教授による**講演**や、フィルム上映が予定されており、作品制作に当たり使用した調査資料のアーカイブライブラリーや、当プロジェクトに関係した過去の展示やフィールドワークのビジュアルカタログを用意いたします。一連の公開イベントと同時にスコットランド、オランダ、日本、アメリカの**各地**において「Satellite」にまつわる展覧会を開催し、プロジェクトは国境を超え、潜望鏡のような広い視野を提供します。それは理論的に観覧可能にする国際的な文脈を構築し、エディンバラと他の場所間の持続的な**対話**を創る試みと同時に、**自然**と**人工衛星**の両方を展覧会によって考察することを目的とした共同プロジェクトです。

□ 展覧会名　**Post-liminal**

□ 期　　間　フェスティバル期間中、2011年８月４日（木）から９月４日（日）の　**８月４日**（木）から**８月25日**（木）の**３週間**

□ 主 催 者　eca edinburgh college of art　**e**dinburgh **c**ollage of **a**rt, **A**rt **S**pace& **N**ature（※以下ecaASN）
エディンバラ芸術大学大学院｜アートスペース＆ネイチャークラス　www.asnse.eca.ac.uk

□ 企 画 者　**Chandra Casali-Bell** ／ チャンドラ・キャサリーベル　＆　**Jennifer Littlejohn** ／ ジェニファー・リトルジョン

日本における関連企画

□ SATELLITE dabada

エディンバラアートフェスティバル2011の公式プログラムへ日本人アーティストとして招聘された川松康徳は、上記の公式プログラムの**日本関連企画**といたしまして、昨年より開始したOne Day Exhibition Project『**dabada**』（※資料①を参照）を発展させるかたちで、eca ASNの協力のもと、テントをギャラリーに見立てた「**Tent Gallery**」を制作し、それを衛星として日本の各地を巡回（**巡礼**）する**移動型展覧会**（**SATELLITE dabada**）を開催し、eca ASN に併設されているTENT galleryを基地局と位置づけ、日本での**衛星文脈**を制作し、そのドキュメンテーションの送信によって展示作品を企画・制作・構成・展示するものです。

それは衛星にまつわる事柄／言葉、**記録機能（フォーカシング）**と衛星を追跡**観察する行為（トラッキング）**をピックアップし、展示が行われる現場を**テレメトリ（衛星の動作状況を地上に送信）**するものです。

□ 展覧会名　**SATELLITE dabada**

□ 企画/構成　**川松 康徳**　　□ 進行/調整　山本 信幸、清水 康行

□ 協　　賛　**ASCUS**　（http://www.ascus.org.uk/）

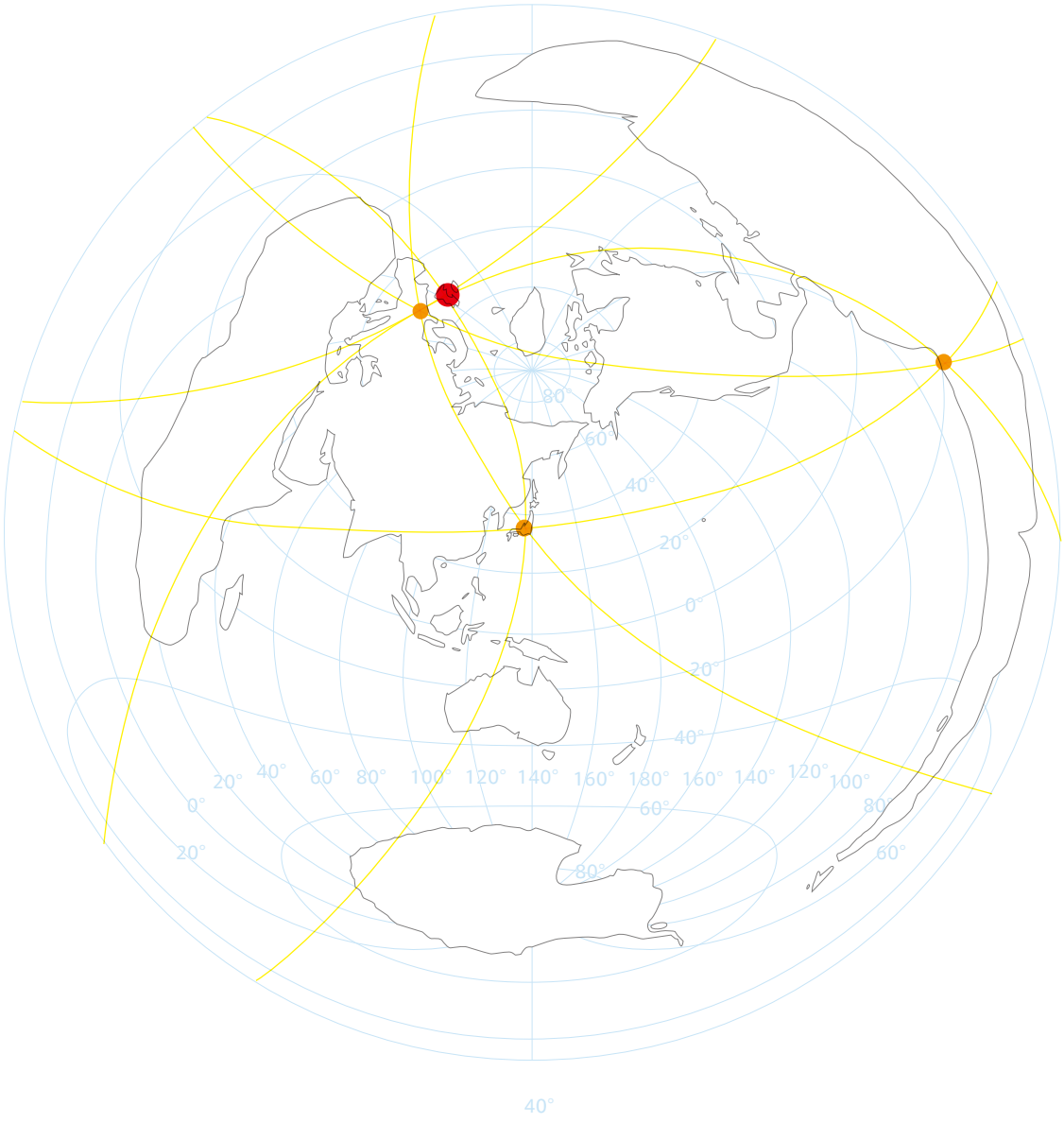
□ 協　　力　EDINBURGH ART FESTIVAL　The City of Edinburgh Museums & Galleries　eca edinburgh college of art　YICA Yamaguchi Institute of Contemporary

□ 招待経緯　関連プログラム企画者である川松康徳が2011年4月7日から16日の11日間エジンバラに滞在し、ecaASNのテントギャラリーにて4月8日に当人が企画／構成するグループ展「EDINBURGH dabada」並びに個展「FAUSTUS」を開催したおりに、ASNメンバーである公式プログラム企画者の１人、ジェニファー・リトルジョンがdabadaのプロジェクトに関心を持ち、交流を持ったのがきっかけで、dabadaの無定住型の展覧会方法と、衛星をテーマにした企画プログラムのコンセプトのイメージの共有によって、招待および展覧会が実現する運びとなりました。

	Edinburgh Art Festival 2011	da ba da TENT
展覧会名	**Post-liminal**	**SATELLITE dabada**
期　　間	**8月4日**(木)から**25日**(木)の**３週間**	**8月4日**(木)、**11日**(木)、**12日**(金)、**13日**(土)、**18日**(木)、
展示場所	**TENT Gallery** eca edinburgh college of art	群馬・秋田・山口・東京・神奈川 (6月現在＊詳細はお問合せ下さい)
展示方法	(1)地図のオブジェ (2)実際に行われた展示写真 ※(1)(2)共に資料②をご参照下さい。	ドーム型テント ※資料④をご参照下さい。

エディンバラアートフェスティバル2011の公式プログラムへ日本人アーティストとして招聘された川松康徳は、上記の公式プログラムの**日本関連企画**といたしまして、昨年より開始したOne Day Exhibition Project『**dabada**』(※資料②を参照)を発展させるかたちで、eca ASNの協力のもと、テントをギャラリーに見立てた「**Tent Gallery**」を制作し、それを衛星として日本の各地を巡回(**巡礼**)する**移動型展覧会**(**SATELLITE dabada**)を開催し、eca ASN に併設されているTENT galleryを基地局と位置づけ、日本での**衛星文脈**を制作し、そのドキュメンテーションの送信によって展示作品を企画・制作・構成・展示するものです。
それは衛星にまつわる事柄／言葉、**記録機能**(**フォーカシング**)と衛星を追跡**観察する行為**(**トラッキング**)をピックアップし、展示が行われる現場を**テレメトリ**(**衛星の動作状況を地上に送信**)するものです。

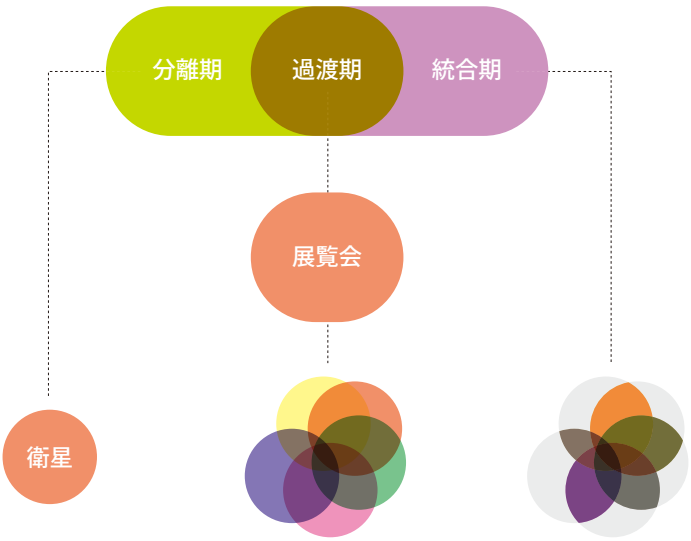
展示方法 (詳細)	あらかじめ制作した地図のオブジェと写真額をエジンバラに郵送し、ギャラリー内に会期中展示しておき、日本で展示を行うごとに撮影した写真をe-mailにてデータを送信。エジンバラにてプリントアウトし、空の額に写真が額装され展示が完成していく、ワークインプログレス・スタイルの展示。 ※展示イメージは資料③を参照下さい。 ※撮影は川松康徳によって行われ、写真をe-mailに添付し、エジンバラにてジェニファーによってプリント、額装される。同様にあらかじめ送ってあるオブジェ、並びに空額もジェニファーによって展示される。	アウトドア用のドーム型テントをギャラリーに見立て、現地へ持ち運び、組み立て・展示・構成する。 ※詳細は資料⑤を参照下さい。 テントの運搬並びに組み立ては企画者(川松康徳)または進行係(山本信幸)によって行われる。テントの組み立ては、製品に付属する取扱説明書通りに行われ、室内などで地面に杭が打てない場合には室内におもりを設置し威張り付けるなどして杭の代わりとする。 展示作品はテントの内部に設置され、鑑賞者はテントに入り、作品を鑑賞する。 鑑賞は１人づつ行われ、内部は**外光または**ロウソクによって鑑賞に際する十分な明かりが確保されており、入り口を開け、靴を脱ぎ、座って鑑賞する。


80°
60°
40°
20°
0°
20°
40°
20° 40° 60° 80° 100° 120° 140° 160° 180° 160° 140° 120° 100° 80° 60°
0°
20°
40°
60°
80°
40°

□ テーマ　　**『POST-LIMINAL／ポスト–リミナル（再統合）』**

in EU

POST-LIMINAL／ポスト–リミナルとは、フランスの文化人類学者 **アルノルト・ファン・ヘネップ**によって提唱された**「通過儀礼」**の三段階構造理論、**分離期・過渡期・統合期**の統合期に該当する言葉で、自らがを置いていた**環境**から新しい環境の移行された**状態**を意味しています。そしてその**移行**という事柄全体が通過儀礼にあたります。
ファン・ヘネップが考案した通過儀礼の三段階構造理論の**深化**と「過渡期」についての理論**拡張**を行った**ヴィクター・ターナー**によって提唱された**コミュニタス**の概念（＝社会構造が未分化で全ての成員が平等な共同体として機能する環境）を引用し、各国で展覧会を同時多発的に行うことにより作り出された無所属状態を**回収・集約**し、テーマ（衛星）の新しく意味を創造しようとするものです。それは衛星という限られた性質、つまりは他の惑星の力による運動、限られた弱い力の存在を全体へと**飛躍**させるばかりか、社会という枠組みにおける**小さな**共同体・組織の在り方を模索し、その可能性を考察する**実験的**プログラムでもあります。



□ テーマ　　**SATELLITEdabadaにおけるPOST-LIMINAL**

in JP

SATELLITEdabadaでは、ヴィクター・ターナーのコミュニタスの概念が示した通過儀礼の過渡期における（社会的・政治的）構造の形式・常識・権威などの封建制の逸脱を背景に、展覧会におけるギャラリー／展示場所という場所ありきの仕組みを１つの構造として捉え、展示場所そのものを持ち運び構成することによって、場所による権威や常識（あたかもその展示物がアートであるような）からの逸脱とともに、そこにある作品を作品たらしめることへのより親密な関係を試みます。それはdabadaが行っている移動型の一日だけの展覧会が意味する、作品による場（展覧会場）そして時間（展覧会）の創造をまたひとつ体現するものだと言えます。

□ 企画趣旨

美術という**形式**がいまなお現代において**意味**を持ち得るのならば、それは**媒体**としての美術の有益性にあると言えます。「デュシャンの《泉》」によって、アーティストの**思考と概念**があらゆるものを**美術化**することが可能であると提示されたとき、それは美術の膨大な**歴史と事実**においてどのように意味を獲得し美しさを**創出**したかにあります。
ダバダでは、美しさを提示する**場**の創出とともに、美術（市場）のための美術ではなく、生活空間へと展開することにより生活における**発見**を促し、**生きた**／**活きた**美術を目指します。

DADA
BA

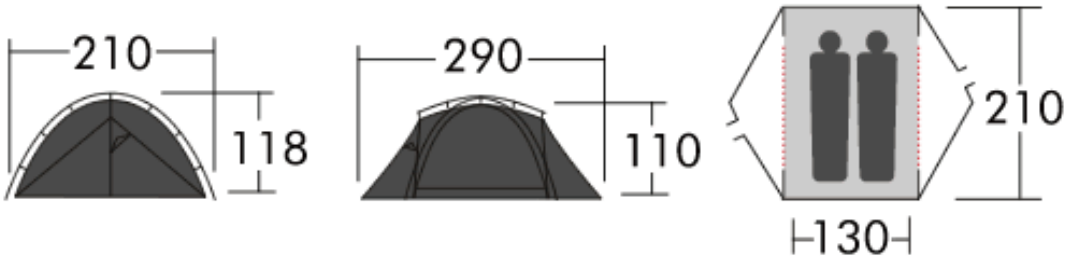
dabadaは
場所を特定してゆきます。

DAbaDAは
美しくて無いものです。

ダバダは
ダ**場**ダであり、ダダ+場です。

□ 展覧会歴

①	2010年 **11月7日**	**TOKYO**dabada	〒158-0086 **東京都世田谷区尾山台3-16-6**
②	2011年 **1月7日**	**TOKYO**dabada	〒158-0086 **東京都世田谷区尾山台3-16-6**
③	2011年 **3月3日**	**TOKYO**dabada	〒146-0082 **東京都大田区池上3-60-6**
④	2011年 **4月8日**	**EDINBURGH**dabada	TENT gallery / Edinburgh College of Art
⑤	2011年 **5月5日**	**TOKYO**dabada	〒166-0014 **東京都杉並区松ノ木2-28-2 3F**
⑥	2011年 **7月7日-14日**	**GUNMA**dabada	AIS gallery / Art Institute Shibukawa



※資料は小川キャンパルのホームページより抜粋